

[過程-2]

審査の結果の要旨

氏名 岡村毅

本研究の目的は、日中の眠気が認知機能低下の予測因子であることを横断研究で予備的に明らかにすることを目的に、東京都の 2 か所の地域において独立した 2 つの研究を行ったものである。以下の結果が得られた。

1. 日中の眠気は、睡眠不良、人口統計学的要因、生活状況要因、健康関連要因を調整してもなお主観的記憶障害の有意な、そして強力な関連要因であった。
2. この関連が、これまで報告のなされていないソーシャルネットワーク、外出頻度、ソーシャルサポートを調整しても示された。
3. 2 つの地域ではいずれも男性においてエプワース眠気尺度の得点が高く、11 点以上で定義する過度の眠気を持つものが多かった。

以上、本研究はこれまで報告のなされていない我が国の地域在住高齢者の日中の眠気と、主観的認知機能低下の関連を明らかにするものであり、学位の授与に値するものと考えられる。